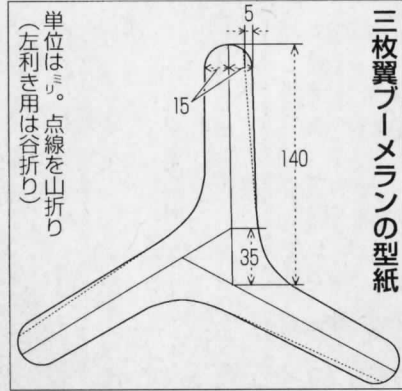


# 家庭

## 室内用ブーメランできた

大阪経済大・西山助教が考案

簡単にできる  
安全に飛ぶ  
確実に戻る



紙製ブーメランの正しい飛ばし方。指ではさんで立てて持ち、強い回転を与えて押し出すように投げる。大阪市東淀川区大隅2丁目の大阪経済大学で

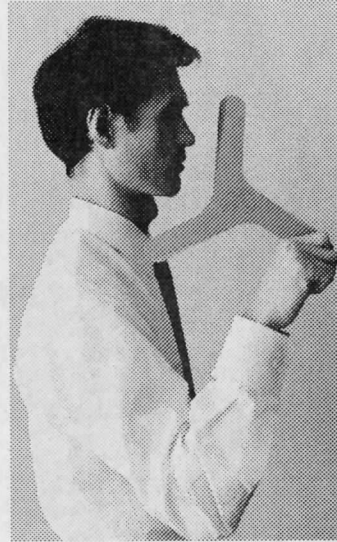
手軽につくれて、室内で飛ばせる三枚翼の紙製ブーメランを、大阪経済大学経営学部の西山豊・助教(四七)が考案した。アウトドアスポーツとして人気が高まり、二〇〇〇年のシドニー五輪では公開競技にしようとする動きもあるブーメランだが、木やプラスチックの本格的な「く」の字形は、飛ばす場所の確保や技術など難しい点も多かった。西山助教は「紙製は作り方も簡単だし安全。投げ方さえマスターすれば、空中から戻ってくる感激を味わえます」と話している。

## 厚紙を切り抜き二枚翼に

ブーメランはオーストラリアの先住民が使った武器として知られる。アメリカでも盛んで、二年に一回の世界大会には十数カ国が参加する。日本では一九八二年、日本ブーメラン協会(会長・石渡清元)が参院議員)が参院議員、現在、約三百二十人の会員を抱えている。スポーツ用品店などでも輸入品の競用ブーメランが並ぶようになったが、オーストラリアのおみやげは、五十歳以上飛ぶものもあり、狭い場所では危険だという。こうした背景もあることから、西山助教は紙製ブーメランを考えついた。

厚めの画用紙か、菓子箱の紙に、型紙(図参照)を写し取り、縁がなめらかになるように切り抜く。三枚の翼の片側を点線部分に沿って山折りにして角度をつければできあがり。三枚の翼の先端部分に、直径五ミリの穴を開ければ、「シュルシュル」と音を立てながら飛ぶという。

投げ方のコツは「立てて投げ」と「回転」。山折りの表面を顔側に向けて立て、一端を人さし指と親指で挟んで持つ。手首をうまく利かして回転をつけ、目の高さに投げる。左回りに直径三十四センチの弧を描いて戻ってくるはずで、室内でも楽しめる。二枚



今年の日本シリーズは、ヤクルトが四勝一敗でオリックスを抑え、勝利を収めました。このシリーズの間、我が家には一人燃えている男がいました。その正体は幼稚園に通う五歳の息子です。イチローの大ファンで、サッカー人気の中にも野球一筋、ルールも難しい用語も必死で覚えようとしていました。この日本シリーズは力が入っていて、テレビ中継が始まると、トイ夫婦でした。だんだん彼のペースに巻き込まれていきました。そして翌日の目覚めの一言は「オリックス勝った?」。頭の中は日本シリーズ一色です。そんな息子に最初はあきれかかっていた私たちが、だんだん彼のペースに巻き込まれていきました。残念なシリーズになってしまいました。でも、来年は球場に家族三人で行って、思いっきり声を出して応援するぞ。「がんばれ、オリックス」

大阪府高槻市 生島 三枝子 主婦・35歳

「軽い手荷物の旅」

どこにもいるわけがないのに、不思議な存在感がある、広く愛されているムーミン一家。その生みの親のトーベ・ヤンソンさんが、政治風刺画をどきどき描き、大人向けの長編小説もちゃんと書いていて、三十年來、夏は一部屋だけの手作りの小屋で仕事をしていたことを、遅まきながら知ったのは、富原真弓さんが「ユイカ」誌に書かれた一文によってであった。

あのムーミン物語の書き手の、そうしたたかなもう一つの「顔」を、ぜひのぞかせてほしいと思っていたら、このたび、富原さんの個人訳で全八巻のコレクションが刊行されたので、とびついた。

この短編集は、旅人の目によってとらえられた、さまざまな人間や街や心の地図である。長い間、小さな孤島で、むろん電気もガスも水道もない小さな片隅で仕事を続けてきたヤンソンさんならではの「醒さ」めて(さ)えた瞳(ひとみ)に映

「子どもの本」

旅人が見た心の地図

冒頭に置かれた「往復書簡」にあるように、「ほかの人のことを気にしない、どう思っているのか、わかってくれているのかなんて気にしない。そうすれば語っているあいだに、ただ物語と自分自身だけが問題になる。それでこそ、ほんとうの意味で孤独になれる」と、きっぱり言い切る作家らしいとき澄まされた感性、おさえのきいた表現が織りなす、硬くて美しい石同士を打ち合わせたような音の聞こえる気がする短編集である。

こうしたものが書けるヤンソンさんであればこそ、あのムーミン・シリーズ、たっぷりした子どもの時間を生きてきた者だけが一度きり書ける世界が、生み出されたのだと、うなずかせてもくれる。

上質の物語にふさわしく、地味ながら美しく、しかも軽い手荷物の一つとしてずっとカバンにしまえる本に仕立ててくれたスタッフに感謝したい。これをきっかけに子どもの本の書き手像をもう一度見つめ直してほしいとも思った。

(今江 祥智) (筑摩書房、一八〇〇円。今江祥智さんは児童文学者)

このコラムは今回で終わります。

「昔とちがっていまは、パーキンソン病の非常にいい薬がありますからね」と、病院のお医者さんはいふ。

「それは心配ないのですが、それより山田さん、せつかにここいられたのだからこの際、全身の検査をなさって、悪いところはせんぶなほおしてゆかれたらいいですか」と、うれいことをいふ。

「糖尿病も思ったより軽いが、とにかく眼底出血を起すほどの症状を呈している。いまのところインシュリンを使うとはじまらない。食餌療法のはらが

## 50年ぶりの人間ドック



え・志村 節子

## 続 あと千回の晩飯

山田 風太郎

いいと思う。そのためにも入院してもらったほうがいい。ま、一月くらいはね」

「どうですか。それじゃそうしてもらいますか」

私はわびしい笑いを浮かべてうなずいた。少年期のころから蒲柳のたちと見られ、自分もそう考えている私だが、ふしぎなことには戦後五十年、病氣らしい病気をしたことがない。

三十年ほど前、いちどだけ腰痛で入院したことがあるが、そのときもビタミン剤を与えられて静臥しているだけで、これといった治療は受けなかったようだ。私も腰痛の原因が立膝で原稿を書いたりするふだんの姿勢の悪さからきたものだと考えていたから、静臥も一つの療法だと心得て、一週間ばかりで腰痛が消えると、そのまま勝手に退院してそれ以来お医者さんにお

目にかかったことはない。いま五十年ぶりに、お医者さんから入院をすすめられて、私の頭にひらめいたのは、戦後五十年、なるほどここで自分の身体を総点検するのも悪くはないな、という思いとともに、しかし遅すぎたかも知れない、すでにここまでに糖尿病とパーキンソンが指摘されている。いま人間ドックに入れば、全身総崩壊の状態にあるだろうな、という予想であった。

いま「悪いところはみんな治そう」というお医者さんの親切な言葉を受けて感謝しながら、そろはいつても三十代、四十代の身体に帰れるわけじゃない、何しろ七十三だからな、と私は心中わびしい笑いを浮かべたのである。

しかし私は入院することにした。(作家)

セミナー「劇と民族・人間」月1日午後2時から2回、大阪塚三丁目とよセンター(阪急イゴラビア)で取材する一方いた日本人女性するなどしたフナリスト水口です。五百円。43432とよ協会 講演会「電磁える」11月10日大阪・中之島の野見也・京大阪品の電磁波に付加費五百円。0469331

## 情報

障害者らがバスツアー

明るく豊かなりを進めている福祉推進財団(団)は、高齢者女性たちが触日のバスツアー集している。

日程は十一月六日、岐阜県の知県の明治村に加費は大人二万小学生一万九千五百円。縮め十四日、先着せと申し込みは一五〇〇一(同

料理

ニラをたっぷり生地をひきとまと台に打ち粉(強てからのせて耳柔らかくなる。ラップにしておいて休ませます。その間に肉をす。ニラ100gに、豚赤身肉、しょうゆ、砂糖各大さじ1ウ各少々と合わせます。10等分生地を棒状にのしします。めんほどの円形に肉あんを包みまして形を整えまフライパンにじーを熱し、もます。両面に色つけたら湯大さふたをし、弱火なるまで蒸し焼残りも同様に焼1人前約3、1。(約50